

メッセージアウトライン

マタイ 2:1～12「ヘロデ王の恐れ」

[1-2]「イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ。東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。『ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みに参りました』」

ヘロデ王…BC40年～BC4年ユダヤの王として在位。彼はユダヤ人ではなくエドム人であった。彼は政治的に優れた手腕を持っており、パレスチナ地方に平和と秩序をもたらし、エルサレム神殿の再建に着手したり、飢饉の折には難民に援助の手を差し伸べたりしたので「大王」と呼ばれた。しかしまた彼は非常に猜疑心の強い人物で、その王位を脅かす者があると思うと近親者でも処刑した。その晩年には「殺意に満ちた老人」とまで呼ばれ、当時のローマ皇帝アウグストは「ヘロデの息子であるよりヘロデの豚であるほうが安全だ」と言ったという。このヘロデが王としてユダヤを治めている時代に、イエスがユダヤのベツレヘムでお生まれになったのである。ベツレヘムはエルサレムの南約8kmにある町であのダビデ王の出身地。ヘロデはBC4年に死んでいるのでイエスはそれ以前にお生まれになったことになる。

東方の博士たち…ユダヤから見て東方とはアラビア、バビロン、ペルシャ方面。博士とは占星学者のことと思われる。この地方は占星学が盛んであった。11節で彼らは三種類の贈り物を携えてきているので伝統的に三人であったと考えられている。東方の国々がかつてイスラエル人が捕囚となっていた地であり、それゆえ彼らはユダヤ教や、やがて救い主が来られることについてもかなりの知識を持っていたと思われる。彼らは東のほうでユダヤ人の王誕生の星を見たのでユダヤの首都エルサレムにその方を拝みに来たと言う。この星はどのような星であったかは不明であるが通常の星ではないことは確かである。

[3-4]「それを聞いて、ヘロデ王は恐れまどった。エルサレム中の人も王と同様であった。そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした」

ヘロデ王にとっては昔から聖書によって約束されていたユダヤ人の王が生まれたということは、自分の王位がくつがえされることになると思って恐れた。彼はエドム人であり、純粋な意味でのユダヤ人の王ではないからである。エルサレムの市民たちが恐れた理由は、ユダヤ人の王誕生の知らせを聞いたヘロデ王が、自分に対する脅威を未然に防ぐために、どのような残虐な行動に出て彼らに危害を及ぼすようになるかわからないので恐れたのである。事実彼はこのユダヤ人の王として生まれた子を抹殺するための計画を立て始めた。彼は祭司長、学者たちを集めてキリストはどこで生まれるのかと問いただした。

[5-6]「彼らは王に言った。『ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです。[ユダの地、ベツレヘム。あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。わたしの民イスラエルを治める支配者が、あなたから出るのだから。]』」

彼らは旧約聖書のミカ書5章2節を引用して、それはユダヤのベツレヘムであると答えた。これは当時のユダヤ人の間ではよく知られていたことであったと思われる。→ヨハネ7:42

[7-8]「そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、彼らから星の出現の時間を突き止めた。そして、こう言って彼らをベツレヘムに送った。『行って幼子のことを詳しく調べ、わかったら知らせてもらいたい。私も行って拝むから。』」

しかし、実際は彼は幼子を殺そうとしていたのである。

[9-10]「彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ。東方で見た星が彼ららを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ」

この星の動きは全く超自然的な動きであった。東方の博士たちはこの星の動きの背後にある人格的な神がこのように自分たちを導いてくださったことを知って非常に喜んだ。

[11]「そしてその家に入って、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた」

この家はイエスがお生まれになった時の家畜小屋ではない。イエス誕生の時からかなりの日数がたっていると思われる。彼らは母マリヤとともにおられるイエスを見、ひれ伏して拝み、贈り物をささげた。

黄金…貴金属の中で最も価値あるもので、王にふさわしい贈り物。

乳香…芳香性の樹木(バルサム樹)の樹脂または樹液を濃縮したもの。神殿において礼拝と犠牲がささげられる時に用いられた。

没薬…アラビヤに産する木の樹液から採った。痛みをやわらげるための麻薬にもなり、また防腐作用もあった。イエスの葬りの時、体に没薬が塗られた。→ヨハネ 19:39

博士たちはイエスがどのような生涯を送るかは知らなかったが、彼らの贈り物は王として、また礼拝されるべきお方として、そして十字架で死なれ、世の罪の贖いをなさるお方にささげるものとしてふさわしいものであった。

[12]「それから、夢でヘロデのところへ戻るなどという戒めを受けたので、別の道から自分の国へ帰って行った」

神はちゃんとヘロデの悪巧みを知っておられ、博士たちに夢で戒めを与えられ、それで彼らは別の道から自分の国へ帰った。

東方の博士たちははるばる遠方から時間とお金をかけてやって来た。しかし地元のユダヤ人たち、エルサレムの人々の反応はどうであったか。ヘロデ王は自分の地位が脅かされるのを恐れてイエスを殺そうとした。祭司長や律法学者たちは聖書をよく知り、救い主がどこで生まれるかということも調べることができたが、行って拝もうとはしなかった。彼らは救い主よりも自分たちの今の立場、生活のほうが大事と思っていたのか。彼らの姿に自己中心的な罪深い人間の姿を見る。

しかし、そのような敵意と悪意、無関心の渦巻くこの世界へ神のひとり子、救い主イエス・キリストは来てくださった。このイエスはやがて十字架につけられ、私たちの罪の贖いのために死なれる。だれでもこのお方を救い主として信じる者は救われ、天の御国にまで続く永遠のいのちを与えられるのである。

この神の御子イエス・キリストが人となってこの地上に来てくださった日を記念しお祝いするのがクリスマスである。東方の博士たちはイエスに宝をささげて礼拝をした。私たちは何をささげることができるだろうか。私たちは敵意や恐れや無関心ではなく、心からの感謝と賛美をもって、また私たち自身をもささげて喜びをもってこのお方に従っていきたい。